

THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

インスピレーションになろう

BE THE INSPIRATION

R I 会長 バリー・ラシン



2018~2019

楽しい例会・挑戦と感激
Cheerful Meetings, Challenging
and Touching

富津中央RC会長 渡辺 哲夫

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

No.2544 第8回例会 2018. 8. 30 曇

点 鐘：渡辺哲夫 会長

進 行：神子 恒 副SAA

ソング：それでこそロータリー

お客様：袖ヶ浦 RC より

会長／鈴木和弘様、幹事／福原孝彦様、
研修リーダー／高村和朗様

会長挨拶

渡辺哲夫 会長



皆さんこんにちは。まず始めに本日のお客様をご紹介します。本日のお客様は、袖ヶ浦 RC の鈴木和弘会長と福原孝彦幹事並びに高村和朗様です。当クラブに表敬訪問ということでご来訪くださりありがとうございます。後ほど皆さんには一言ご挨拶を頂きたいと思っております。

さて、これまで蒸し暑い日々が続いておりましたが、昨日あたりは暑さも一段落して9月に入ると、30度を下回る気温が続くとの予報です。秋の気配が一步一步近づいて来るものと思われまます。

そこで、「〇〇の秋」という言葉があります。「読書

の秋」「芸術の秋」といわれるのは、集中して物事に
取り込むのに、秋はよい季節だということでしょう。

また、穀物や果実が収穫されるこの時期は、「食
欲の秋」「実りの秋」とも表現されます。「スポーツの
秋」といわれるように、各地でスポーツ大会が開催さ
れます。

私の趣味は、読書とゴルフです。今年の暑かっ
た夏は、さすがに一度もゴルフ場に足を運びませ
んでしたが、9月に入り涼しくなったら、積極的にゴ
ルフ場へ足を運びたいと考えております。

一方、読書では推理小説が大好きで、特に、今
年3月に83歳でなくなった、作家・内田康夫の「浅
見光彦シリーズ」を愛読してきました。昨日、本棚の
片付けをしながらこれまでに読んできた本を一覧表
にして数えてみたら、その数ざっと132冊、ミカ
ン箱2箱分ありました。

しかし、よくもこんなに買い集めて読んだものだ
と、自分でも呆れてしまうほどでした。作家も既に亡く
なっておりますので、復刻版は発売されるものの、新
しい著書は発刊されませんので、改めて最初の頃
のシリーズを読み返してみることにし、気忙しい昨
今、秋の夜長をゆったりとした気持ちで読書を楽し
みたいと思います。

最後に、本日の会員卓話は榎本守男会員にお
願いをしてあります。聞いている人を引き付ける巧
みな話術、私は少しでも見習いたいと思います。よ
ろしくお願いいたします。

〒293-0043 富津市岩瀬 841-3

いち川旅館 Ichikawa ryokan

841-3 Iwase Futtsu-shi Chiba-ken,

Tel. 0439-65-0177 Fax. 0439-65-0178

URL <http://www.futtsuchuo-rotary.org>

Mail home@futtsuchuo-rotary.org



会長報告

次週、9月6日の例会は外部卓話を予定しており、千葉県立天羽高等学校・藤平恭司校長に卓話者としてお願いをしてあります。

幹事報告

神子勝美 幹事



報告事項

1. 9月ロータリーレート 112円/ドル
2. 地区会員増強維持拡大セミナーに渡辺会長、神子幹事、高橋増強委員長の3名で出席。主な内容は現在の地区会員数2795名を8%増の3000名にすること。富津中央 RC の目標は34名を40名に18%増で問題なし。
3. 9月6日例会 外部卓話
天羽高等学校校長／藤平恭司様
4. 第5グループ「情報研修会」開催のお知らせ
開催日 2018. 10. 20(土)
時間 登録受付 13:30 点鐘 14:00
場所 かずさアカデミアホール
締切 9. 20(木)
次回例会にて参加受付

回覧

会報(木更津 RC 7月、8月)



ゲスト御挨拶

袖ヶ浦 RC 会長 鈴木和弘様



皆様こんにちは、袖ヶ浦ロータリークラブは、今年45年目を迎えます。その45代目の会長を務めさせて頂きます鈴木和弘です。宜しくお願いいたします。

昨年富津中央ロータリークラブの50周年事業に参加させていただきました。その時には、なんて多彩な才能をお持ちのクラブなのだろうと感動いたしました。その後も、榎本さん高橋さんと親しくお付き合いさせて頂いております。

先日は、当クラブにも来訪していただきこちらも是非例会に参加したいと福原幹事、高村さんと3名で参加させていただきました。想像以上の、フランクで活気のあるクラブであると感じました。

本日は、勉強させていただきます。宜しくお願いいたします。

袖ヶ浦 RC 幹事 福原孝彦様



職業分類は、輸送業です。こちらの地域には、以前あった内山湊生コン、君津生コンに仕事で来ていました。

富津中央ロータリークラブでは、台湾のクラブと交流があるようですね。袖ヶ浦では、姉妹提携交流などが無いので大変興味があります。

さて、袖ヶ浦の紹介を少し。袖ヶ浦にあるにも関わらず「東京ドイツ村」があります。こちらにも、台湾の方々と来ていただけるようですね。年間100万人の来場者があります。

こちら富津市には、マザー牧場があり80万人の来場者があります。どちらも子供が喜ぶ動物がいます。

これから東京ドイツ村は、12月から3月まで関東でも屈指のイルミネーションがあります。是非、ご来場ください。

本年度、会長、幹事です宜しく願いいたします。

袖ヶ浦 RC 研修リーダー 高村和朗様



幹事の時に榎本さんも幹事で親しくなり、当袖ヶ浦ロータリークラブに卓話に来ていただきました。気さくな人柄に惹かれて親しくさせていただいております。

本日は、偶然にも榎本さんの卓話ということで楽しみにしております。宜しく願いいたします。

会員増強・退会防止セミナー報告

高橋裕之 会員増強委員長



8/25(土)に渡辺会長、神子幹事と3名で出席してまいりました。テーブルディスカッションが盛り上がり、ロータリアンは皆饒舌だと、あらためて感

じた。どのクラブも似たような取り組みでしたが、ユニークな取り組み方がいくつかありましたので、ご紹介いたします。例会後に毎回候補者をリストアップする。世代別に同世代の会員がリストアップする。会員になって欲しい一人ストをつくり理事会で検討する。女性会員の勧誘を2枚目な会員に依頼する。等がありました。主流は、やはり親睦の機会を利用して増強活動を行うでした。

本日は、会員候補者の一覧表(個別責任者記載)をお配りしますので、9月末の期限までに報告をよろしく願いいたします。

嘉義南区扶輪社来訪スケジュールについて

高橋裕之 理事

先日お伝えした嘉義南区扶輪社来訪ですが、5名の会員とそれぞれの御夫人計10名に増えました。李龍駒(Dragon) 蕭麗楓(Lisa)、陳俊男(Toshio) 謝嘉娟、羅智祐(Home) 吳淑雲、蔡宗宜(Chai Tao) 張祐楨、黃佳生(Family) 廖貴珍の10名です。

スケジュールと参加確認表をつくってきました。基本的に先方の希望を取り入れたものになっておりますので、ご協力の程よろしく願いいたします。

嘉義南区扶輪社創立40周年記念式典祝賀旅行積立金希望者募集

神子 恒 国際奉仕担当部長



標題の積立金を始めますので、多数会員の参加をお待ちします。

委嘱状授与



小野恒靖会員がガバナーより地区大会選挙管理委員会委員に委嘱された。



委員としての決意を表明する小野恒靖会員

卓話

人生の分かれ道・三人兄弟

榎本守男 会員



皆さん、こんにちは。

今日が卓話の当番だというのに夏風邪の兆候、のどが痛くて話すのがつらいです。いつもより穏やかな声で話します。

本日のゲストは、袖ヶ浦ロータリークラブの鈴木会長・福原幹事そして高村研修リーダーです。当クラブへメーカーキャップありがとうございます。

高村会員とは、同期の幹事でした。それ以来、親

しくさせて頂いております。高村会長年度に、袖ヶ浦クラブへ卓話に来てくれとの依頼がありました。もちろん快く引き受けました。訪問する一日前に携帯に電話したら「申し訳ない。今、ピッツバーグに出張中だよ。卓話の件、よろしく」と言われ、会長欠席の中で卓話をさせて頂きました。

これもいい思い出の一つです。その時は、「いにしえ人の恋」のテーマで百人一首の恋の歌についてお話しさせて頂きました。

今日は、「ちょっとしたことで、人生が変わる。選択の一つ一つが人生の岐路になる」こんな内容が描かれている明治の小説を軸に話させていただきます。

私も、富津で暮らしていることに不思議な運命を感じています。広島生まれの広島育ち、学生時代を東京で過ごした私が、妻との出会いで地名も知らなかった富津で住んでいる。ここで多くの人と知り合いロータリーに所属し、今日の例会に出席している。同じ空間で時間を共有していることは運命としか言いようがありません。

もっと遡ると、父と母、さらに遡ると祖父と祖母の出会いがなければ、これにつながる私達の生命もなく、この世に存在しないのです。とすれば、この例会場で同席している私たちは広大な砂漠の中の一握の砂だと思えてなりません。

縁(えにし)、赤い糸、運命と表現はいろいろありますが、この関係を大切につないで生きることは大いに意義のあることだと思います。

今日の卓話は、菊池寛(明治の文豪・1888年～1948年)「三人兄弟」を紹介させていただきます。実は私も三人兄弟です。一般的に長男はしっかり者、次男はわんぱく、三男は甘えん坊と言われています。

今も昔も変わらぬ兄弟の性格が良く表現されている作品をコンパクトに話していきます。卓話の都合上、言葉・名前は正確ではないと思いますので、興味のある方は作品をお読みください。それでは卓話を始めます。

時は平安時代、場所は丹波の国です。3人の兄弟が暮らしていました。長男は一郎次、次男は二郎

次、三男は三郎次でした。父は早くから家を出ており、母ももういませんでした。

3人の暮らしは、近所の小作人の農作業を手伝い糊口をしのいでいました。

ある日、一郎次が家に帰るなり、二郎次と三郎次を呼び、このように言いました。「ここでこのまま暮らしてはどうなるものではない。此処を捨てて都に行こう」二人の弟は即座に首を縦に振りました。「お兄様今すぐ出立しましょう」身支度を整え山道を下り始めました。

都まで廿里の道程です。夜を過ごし、日が昇る頃になると、遠くに都がかすんで見えてきました。

少し歩くと大きな公孫樹がありました。よく見ると、そこから先は3筋の道に分かれていました。一郎次は二人に言いました。「同じ道を行くより、それぞれが別の道を歩んで、兄弟がめいめい都で出世すれば、必ずどこかで会えるに違いない」。

三郎次は左の道を選択し、二郎次は真ん中の道を決めました。一郎次は残った右の道を歩むことにしました。まず右の道を選んだ一郎次の話をしましょう。

もうすぐ都が見えるところにきた所で、大きな物体にぶつかったのは覚えているが、それから何時間たったのか、何日たったのかわからず、気付いたときは自分に絹の布団が掛けられ、横になっていました。傍らには美しい女の人が座っていました。「此処は左大臣藤原道世様のお屋敷です。心配しないでください」。

鞍馬へ御参詣の途中で牛が暴れて一郎次に大傷を負わせたのでした。そして道世様は「この若者は遠い田舎から都に出てきて親類もないに違いない。傷が治れば家来にしてやろうとおっしゃいました」。これだけで一郎次にとっては、この上ない出世でした。正直で利口な一郎次はぐんぐん出世して、検非違使となり左衛門尉清経と改名しました。検非違使とは警察署長と裁判所長を兼ねたような勢いの強い役人で、盗賊や悪者をとらえて裁判するのが仕事でした。あれから精力的に充実した日々を過ごしていたのです。

真ん中の道を選んだ二郎次

別れてから、淋しい田舎道がどこまでも続いていました。いつの間にかとつぷり日が暮れて気の強い二郎次も心細くなりました。地蔵様のお堂で一晩明かすことにしました。夜中に屈強な男が、二郎次の肩に手をかけて起こしました。二郎次のこれまでの話を聞いて、武士たちが住む立派な館の殿様の所へ連れて行きました。次の日の夜、都で一番立派なお屋敷の前に集まり、密談を始めました。刀、長刀をもってこの屋敷に押し入ったのでした。二郎次はブルブル震えていました。殿様とは、このごろ都でも名高い鬼動丸という大泥棒でした。

いまさら抜けるわけにもいかず手下になりました。鬼動丸亡き後、二郎次は才覚と勇気が仲間内から認められ、頭となって多能丸と改名し都近くの家を荒らしておりました。あの日の別れから二郎次は多能丸として都で最も恐れられている盗賊の頭となっていました。

左の道を選んだ三郎丸

二人の兄と別れて泣き出しそうでした。ようやく日暮れに都の町はずれに着きました。もう一歩も歩けないほど疲れていました。すると、三郎次を呼ぶ女の声がしました。「あなたが旅の人なら私の主人の家までちょっと来てください」三郎次は喜んでついていきました。

ついていくと、この家の主人は病気で長く病床にっていました。「お願いがある。この娘をお前の嫁にしてこの家を継いでくれないだろうか」正直な三郎次は「私は百姓の倅で、こんな長者の家の婿になるような者ではありません」。

病人の長者は身の上話を始めたのです。「私は一代で十万貫の身代を作った。都で賀茂の長者と言えば知らぬ者はいない。私は高利・重い年貢・田畑をだまし取るなど悪いことはすべてやった。出すものは一文も出していない。金は貯まったが世間の人からは鬼のように嫌われている。この娘には、誰一人婿に来てくれない。どんなに金はあっても何の役にも立たない。私は、今日、明日の命なのです」。話し終えるとグツタリ伏せてしまいました。

気の優しい三郎次は「そんなに、お頼みなら、この家の婿になりましょう」と返事しました。

長者はそれから間もなく安堵して、旅立ちました。その後、三郎次は丸池の長者として十万貫の内5万貫を近隣の人たちに配りました。「今度の丸池の長者は素晴らしい」その名声は都中に広がったのです。子供も一女を授かりました。花子と名付け何不自由なく暮らしておりました。

三人兄弟の再会

銀杏の木の別れから十年が経過しました。一郎次改め左衛門尉清経の下に、都で名高い賀茂の長者から訴えがありました。「前の晩、三十人の盗賊が押し入ってお金ばかりではなく、娘の花子までさらって行った」というのです。

清経は二百人の家来を集め、「多能丸という大泥棒を必ず、生捕にして来い」と強く命じました。家来が帰ってきて、「多能丸を生捕ました。娘の花子も無事取り返しました」

清経は大喜びで「すぐ長者に花子を受け取りに来るように言え」と伝えました。

やがて、検非違使のお役所に多能丸が引き立てられ、白い砂の上に座られました。ちょうど、そこに賀茂の長者が娘を受け取りにやってきて縁側の上に座っていました。

間もなく、烏帽子を付けた左衛門尉清経が一番高いところに座ると、賀茂の長者の方を見て「お前が賀茂の長者か」と言いました。

俯いていた長者が顔を上げて「はい、さようでございます」と言いました。その顔を一郎次の左衛門尉が良く見ると、それは紛れもない三郎次ではありませんか。「三郎次ではないか」と大きな声を上げると、三郎次も「お兄さんですか」と言いました。

二人は両方から抱き付くようにして、オイオイ泣きました。が泣いているのは二人だけではありませんでした。盗賊の多能丸も縛られた身を悶えながら歯を食いしばって泣いていました。それに気が付いた一郎次と三郎次は、どういう訳かと不思議に思って盗賊の顔を見ました。それは二郎次に違いありませんでした。三人兄弟が三筋の道で別れたときは、たった一步の違いでした。しばらく三人でオイオイ泣き続けました。

ご清聴ありがとうございました。

ニコニコBOX

岡田良弘 親睦担当部長

袖ヶ浦 RC / 鈴木和弘、福原孝彦、高村和朗

本日はいつも楽しげな富津中央 RC 様にその秘密を教えてもらいに来ました。

小野恒靖 選挙管理委員に委嘱されて。

高橋裕之、平野安照、高島治雄、若鍋武良、大網庄一郎、鈴木克彦、石渡鋼、志波克、榎本守男

白石会員にお米を頂いて。

*榎本守男 袖ヶ浦 RC の皆様を歓迎して。

卓話をさせて頂きました。

石渡鋼、渡辺哲夫、神子勝美、高橋裕之、平川恵敏、平野安照、岡田良弘

袖ヶ浦 RC の皆様を歓迎して。

本間英一 米の取り入れが終わりました。

* >1,000 円 合計 23,000 円

8月期皆出席者

林 雅彦	平野 安照	神子 勝美
岡田 良弘	須藤 隆	高橋 裕之
渡辺 哲夫	榎本 守男	平川 恵敏
石渡 鋼	小野 恒靖	志波 克
高島 治雄		

出席報告

志波 克 出席担当部長

区分	会員数	出席	欠席	MUp	出席率
今回	34/32	25	7		78.13%
前回	34/30	21	9		70.00%
前々回	34/31	21	10		67.74%

8月の平均出席率は73.60%でした。

7月は66.13%でしたので、大幅な向上です。

9月が楽しみです。